四季の森公園の万葉植物

下田 孝

1 万葉植物:現存する最古の歌集「万葉集」に詠われている植物。約 160 種。 万葉集:成立は奈良時代末期、約 4500 首の歌を収める。

2 万葉植物の登場首数:

萩 141、梅 119、松 77、橘 70、葦 51、菅(スゲ)49、桜 44、柳 36、薄(ススキ)34、藤 26、撫子 26、茅(チガヤ)26、真菰 24、卯の花(ウツギ)24、葛 20、などなお、くれなゐ(ベニバナ)は 34 首に登場するが、植物の「紅花」詠ったのは 2 首、他はすべてベニバナで染めた色に関するもの。

3 「四季の森公園・花の図鑑」に掲載されている万葉植物

アジサイ(あぢさゐ)、アセビ(あしび)、ウツギ(うのはな)、ウメ、ウワミズザクラ(かには)、カエデ・モミジ(かへで・もみぢ・かへるで)、カタクリ(かたたご)、カツラ、コナギ、スミレ、ツバキ、ツユクサ(つきくさ)、ナンバンギセル(おもひぐさ)、ネコヤナギ(かはやなぎ)、ハギ、ハス(はちす)、ヒガンバナ(いちし*)、ヒトリシズカ(つぎね)、ヒルガオ(かほばな)、フジ、フジバカマ(ふぢばかま)、ホオノキ(ほほがしは)、マユミ、ミツマタ(さきくさ*)、ヤブコウジ(やまたちばな)、ヤブラン(やますげ)、ヤマザクラ(さくら)、ヤマユリ(ゆり)、ヨメナ(うはぎ) *これらについては、他にもいろいろ説がある。

- 4 「花の図鑑」には掲載されていないが、四季の森公園にある万葉植物例 アシ、イネ、カナムグラ(むぐら)、クズ、クヌギ(つるはみ)、クリ、クワ(くは)、ササ、シダ レヤナギ、スギ、セリ、タケ、タデ、ツツジ、ヒノキ(ひ)、マツ、ヤブカンゾウ(わすれぐさ)、 ヤマハゼ(はじ)、ヤマブキ、ワラビ、などなど
- 5 四季の森公園の万葉植物が詠み込まれている歌の例
 - ◎秋風は涼しくなりぬ馬並めていざ野に行かな萩の花見に(詠人不詳・2103)

「萩の花見」をしていたことが分かる。ハギは二次林の植物。万葉時代の大和地方は急激な開発で照葉樹林が大規模に伐採され、そこに代償植生としてススキ・カヤ・ハギなどの草原植生が出現していた。当時、既に自然破壊は進行していた?

- ◎わが園に梅の花散るひさかたの天(あめ)より雪の流れ来るかも (大友旅人・822)
- ◎春雨はいたくな降りそ桜花いまだ見なくに散らまく惜しも(詠人不詳・1870)

採録歌数から「万葉時代は桜より梅が喜ばれた」と見られがちだが、桜も当時から鑑賞されていた。梅は遺唐使によって輸入され、宮廷や貴族の庭などに植えられ、「舶来の花」として珍重された。梅の歌は7割が詠人名あり、桜は半数が詠人不詳。平安時代になると、唐が衰え、唐物崇拝の気持ちも萎えて、日本原産の桜に対する潜在美意識が一気に開花したと考えられている。

(参考) 万葉集の歌の検索:ネット検索で「山口大学 万葉集」と入れる。 以上